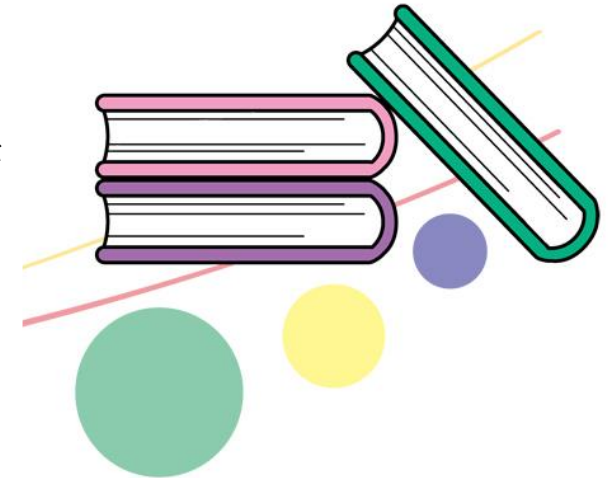
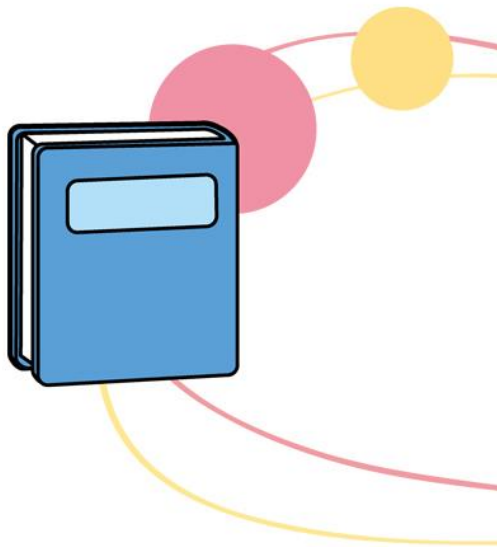


～ 読書ノート活動のコンセプト ～

「読書ノート」は、学校図書館で借りた本だけでなく、休み時間に閲覧した本や、教室、家庭、公共図書館などで手に取り、読んだ本を記録に残していくものです。「貸出カード」に借りた本の記録を残すのではなく、「読書ノート」に自分が読んだ本を記すことで、児童が生活全般の中で触れた本、心を動かしたその軌跡を記録することができます。

また、自分で目標を決め、家族・教師・司書などからの励ましや、友達が頑張っている姿から力をもらうことで、読書意欲がわくことが期待されます。さらに、本の感想を自分の言葉で記していくことで、国語力向上へと、つながります。

児童においては自分の読書生活を振り返る記録となり、教師にとっては読書指導・児童の成長を確認する手掛かりとなり、学校司書にとっては図書館利用教育の一環となります。また、ご家庭や公共図書館、書店、読書ボランティアの皆さまをはじめ、地域全体で児童の読書生活を積極的に応援することによって、「読書のまち・河内長野市」を市民全体で体感できる一助になればと考えます。



河内長野市の「読書ノート」活動について

2017.4

河内長野市 学校図書館司書の会

平素は学校図書館の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

河内長野市の「読書ノート」活動は、平成23年度から続く、市内全小学校児童を対象とした読書推進活動の一つです。河内長野市学校図書館司書の会が提案し、市全体の取り組みとして、図書館部会や司書教諭から意見をいただき、改訂しながら活動を進めています。

今年度も4月から市内全児童に「低学年用」「中学年用」「高学年用」をそれぞれに配布し、取り組みを始めます。昨年度に引き続き、皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

1・「読書ノート」の目的

「読書ノート」は、学校図書館で借りた本だけでなく、休み時間に閲覧した本や、教室、家庭、公共図書館などで手に取り、読んだ本を記録に残していくものです。「貸出カード」に借りた本の記録を残すのではなく、「読書ノート」に自分が読んだ本を記すことで、児童が生活全般の中で触れた本、心を動かしたその軌跡を記録することができます。

また、自分で目標を決め、家族・教師・司書などからの励ましや、友達が頑張っている姿から力をもらうことで、読書意欲がわくことが期待されます。さらに、本の感想を自分の言葉で記していくことで、国語力向上へと、つながります。

児童においては自分の読書生活を振り返る記録となり、教師にとっては読書指導・児童の成長を確認する手掛かりとなり、学校司書にとっては図書館利用教育の一環となります。また、ご家庭や公共図書館、書店、読書ボランティアの皆さまをはじめ、地域全体で児童の読書生活を積極的に応援することによって、「読書のまち・河内長野市」を市民全体で体感できる一助になればと考えます。

2・「読書ノート」の運用について

【期間】

4月最初の「図書の時間」、または配布・説明ができる「図書の時間」から、それぞれ開始する。3月中旬頃をいったん学校司書への提出期限とするが、「読書の記録」はその学年内で続ける。

【保管】

読み終わった本を記録していくため、児童個人の保管とする。

【運用ルール】

一、読み終わった本を記録する。

題名、読み終わった日付、その他、学年や習熟度に合わせて感想や書誌事項を記入する。学校図書館で借りた本だけでなく、教室・家庭など、児童が生活の中で読み終えた本を記録する習慣をつける。ただし、「読書ノート」が児童の読書生活の負担にならないよう配慮する。

二、同じ本を何度も記録しない。

一冊の本に対する記録は1回だけとする。同じシリーズでも、巻数・タイトルが異なれば記録できるものとする。

三、記入する本の種類は問わない。

児童の読書生活には、文学だけでなく絵本や図鑑、実用書などの読書も含まれる。それらすべてを読書ノートに記入する。ただし、教科書や漫画は記入しない。

※学習漫画や、学校図書館所蔵の漫画本、クイズや迷路、『ミッケ！』などの視覚探索絵本などの記入については、各学校の学校図書館の所蔵状況や、児童の状況に応じて対応を決める。

四、配布できるノートは一冊だけである。

「図書の時間」の必携とし、紛失しないよう注意する。ノート1冊を書き終えた児童には、50冊の読書記録を確認してノート2冊目を渡す。以降、書き終えたノートと交換で、新しいノートを渡す。

五、ノートに記録したらハンコを押してもらおう。

児童の担任、または学校司書がノートの記録を確認し、押印する。担当者はコメントを記入する、ハンコの種類を変える、など児童の読書意欲を刺激する工夫をする。

また、公共図書館・公民館の図書室でのみ、特別のハンコを押印してもらえる。

六、10冊毎に、シールを貼ることができる。

学校図書館にて学校司書がノートの記録を確認し、シールを配布する。シールを集めることを励みにすることで、読書やノート記入の意欲持続が期待できる。

【読書ノートの内容】

一、「読んだ本のタイトル」について

題名は省略せず、また、児童が書ける範囲で、題名通りの漢字やひらがなで記入する。

二、感想欄(「かんじたこと、わかったこと」欄)について

担任、学校司書は、児童の文章力・表現力が向上するよう留意しながら、記入の指導をする。低学年で文字の記入が難しい場合は、図書の時間などの読み聞かせの後に、ノートへの記入について、星印欄の活用、絵を描く、本の内容に沿った問いかけなどの指示を工夫する。高学年においても、「おもしろかった」「つまらなかった」以外のことも書けるようにアドバイスする。

例)

- ・文学→どんな人物がでてきたか、どんな事件がおこったか、心に残ったエピソードなど。
- ・図鑑→ 何を調べたか、どのような新しい知識を得たか、など。
- ・クイズ・なぞなぞ → 設問を引用、気に入ったクイズ・なぞなぞとその理由、など。
- ・工作・料理 → 作ったもの、何を作りたいと思ったか、など。

・視覚探索絵本 → 作品の工夫点、見つけるのに苦労したもの、自分なりの遊び方の紹介など。

三、書誌的事項について

日付の横の空欄には、書誌的事項を記入する。「分類」「作者」など学年に応じた内容を、図書館利用教育として使用する。

四、達成おめでとうページ(おうちの人・先生・学校図書館からのコメント欄)について

50冊記入を達成した児童には、保護者・先生・学校司書が、お祝いコメントを記入する。

五、分類表について

学校図書館・公共図書館で本を探すときの参考になるように簡単な分類表を付した。

六、「おすすめの本リスト」「お楽しみページ」など(高学年用のみ)について

平成29年度から高学年用のノートを新たに作成した。低・中学年に比べ、高学年は多様な本を選ぶことや、読書後ノートに記入することが難しい傾向にある。そのため、高学年の読書生活の参考になるよう、国語の教科書に紹介されている本を含め様々なジャンルの本を学校司書が選定したリストを付した。

七、表紙・裏表紙イラストは、毎年市内小学5・6年生から募集し、河内長野市教育委員会で選定したものを採用。

八、「シール欄」(裏表紙)について

「運用ルール」六のシールはこのページの所定欄に貼ること。

九、「読書マスター」について

読書ノート1冊終了者を「どくしょマスター」とする。「どくしょマスター」は、学校司書が配布する用紙に、読んだ本の中からおすすめの本を選び、文章やイラストなどを記入して、提出する。

これらは学校図書館内外に公開(希望者のみ)して、他の児童の選書の参考にし、また、達成した児童のはげみになるような活用をする。

「読書のまち 河内長野」の宣言のある市として、学校だけではなく市全体で子どもの読書を応援していきましょう。学校、学校図書館はもちろん、公共図書館・公民館、市内の書店が応援しています。

また、市も広報や読書ノート達成者名をHPで公表する(希望者のみ)などの応援活動を実施しています。ご家庭においても、読書に関する会話や、声かけ、励ましなど、子どもの読書生活を応援していただきますようお願いします。